

会 議 録

会議の名称	平成29年度第7回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成30年1月24日(水)午後7時～9時
開催場所	教育委員会 会議室
出席者	搦木道代議長、本間雄一副議長、板橋三宏委員、岡野雅一委員、京谷恵子委員、佐々木眞理子委員、古澤立巳委員 事務局
欠席者	荒川照子委員、吉田徹子委員、吉田廣子委員
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	1. 協議事項 (1) 家庭学習応援事業親子交流会について (2) 第31期のテーマについて 2. 報告及び連絡事項
会議資料	定期刊行物
会議録確認	搦木道代委員

会 議 内 容 (要点記録)

1. 開 会

○議長あいさつ

2. 協議事項

(1) 家庭学習応援事業親子交流会について

中間報告と合せて、親子交流会について、事務局より内容を説明。

【議長】意見を求める。

【委員】家庭学習応援事業に子どもを参加させている保護者は、学力に重点をおいている傾向があり、家庭学習の定着という事業の趣旨と異なっていると感じる。最後を取るアンケートでは、保護者にどのように伝わっているか確認を取る上でも、はっきりと設問として聞いた方がよい。

【委員】点数があがるということ、家庭学習をするようになったということは、わけて整理して考えた方がよい。平成19年の全国学力・学習状況調査の頃から、学力と家庭学習時間には相関関係があることがわかってきた。点数があがったかどうかではなく、家庭学習の時間を少しでも増やそうというのが、事業の狙い。点数があがっていなくても、家庭学習時間が増えていけば、それは安心感につながるし、家でやるということが大事。そのため、家庭学習時間が増えたか否かをきちんとデータとしてとることが必要。

【委員】宿題の提出率については、個人でバラつきがあるようだが、宿題をやっているということは、毎日コツコツか、前日に一気にやるかはさておき、その子なりにやる時間を作っているという結果だと思う。机に向かって学習をする時間をもつということが大事。

【委員】「宿題をやりなさい」「勉強をやりなさい」は、誰しも1回は子どもに言ったことがあると思う。小学校の宿題は、主に漢字の書き取りだったり、音読だったりするが、塾で出される宿題は難しい傾向がある。家で宿題をやっているわからないと、勉強が嫌になることにつながる。わからない時に、一緒に親が付き合えるかどうかで、大きく変わってくるのだと、実際自分の子どもをみていて感じた。「勉強をしなさい」と言うのは容易だが、一方で見てあげる時間を作れないという現実もある。

【委員】子どもの勉強も難しくなってくるので、子どもに聞かれても答えられない場合もあると思う。可能であれば、親向けの解き方マニュアルなどがあると、見てあげられるかもしれない。あるいは、○付けだけを保護者にお願いすることも、一緒に勉強に向かうひとつの案かもしれない。

【委員】「子どもが親に聞く、親がこたえられない」というパターンは、本当によくない例だと思うが、見方によっては、親子で聞きあう関係ができていくというようにも取れる。子どもが親を頼りにしているということではないか。

【委員】委託者が出している宿題については、確認をしていないが、塾の宿題は難しいものが多いと思う。この事業で出される宿題は、本当に基礎にしばってもらって、それができると、子どもの自信ややる気につながってくると思う。子どもは、失敗体験が多いと、意欲をなくす。成功体験を増やしていくことが大事。

- 【委員】 保護者の関わりも重要だが、中間の効果測定で点数が大きく上がっていることから、子どもたち自身の中で、わからないものがわかるようになったという一つの気づきがあったと感じる。時間的に関われない保護者も中にはいる。そのため、点数が上がったことで、楽しいと感じる、自ら机に向かおうとするという、子どもの自発的な部分を大切にすることも大事。
- 【委員】 この事業は1年間であるが、その後についても継続できるとよい。それには子どもにこの1年間で得た気づきを大事にしてもらいたい。
- 【委員】 宿題をできるペースというのは、各家庭により異なると思う。平日の夜1時間であったり、土日にまとめてなど、様々。そのため、宿題をやる・やらないは別として、家庭学習について考えてもらうきっかけになるようなものを、この事業の途中に投げかけられると、各家庭で、学習について深まっていくのではないかと。
- 【委員】 イブニングスクールについてだが、対象が中学3年生ということで、やはり「受験」「進学」に思考が向かい、事業の趣旨と距離がでているように思う。趣旨を考えるのであれば、対象学年については、もう一度考える必要があると思う。家庭での役割が話されているが、中学生になり、親から離れて、自立して、家庭の中で自ら学習を行うという光景が生まれれば、この事業の目的に近づいていけるのではないかと。中学3年生で始めるのではなく、もっと早い段階で事業をスタートすることも考えてはどうか。
- 【事務局】 中学生については、検討を重ね、部活動との兼ね合いで中学3年生ということになった。公共施設は10時まで使用は可能だが、あまり遅い時間でイブニングスクールを行うことは、生徒の安全面の課題が出てくる。今年度3年生をみていて、勉強に向かう姿勢については、受験を控えていることから、授業前に講師を捕まえてわからないところを教わるというような傾向がみられている。
- 【委員】 中学1年生か、3年生かというところで悩む。部活目線でいうと、部活の時間帯にイブニングスクールが入ってしまうことは残念に思う。集団競技では、大会前やレギュラー争いをしている時、1回の休みが大きな足かせになったりする。部活の問題はクリアにした上であることが前提だと思う。一方で、家庭学習の定着であると、受験を迎える前に行うことが望ましい。当初は、3年生がベストと思っていたが、今は、中学1年生に対し、いろんな手当て（部活の課題など）をした上で、1年生を対象とする案も考えてみてはどうかと思っている。
- 【委員】 サタデースクールについても、小学校の内容をみていると、4年生というのも選択肢としてあるとよい気がする。
- 【委員】 小学生の保護者に対する交流会は、今年度は参加児童のみとなっているが、来年度は広く公開しても良いのではないかと。多くの保護者に聞いてもらい、考えてもらうのもよいと感じている。
- 【委員】 家庭教育の大切さを伝えたり、アンケートを取ったりするのは良いが、保護者に求めすぎると、今度は拒否反応を示してしまうと思う。負担を大きくかけず、一緒に考えていくような姿勢が持てるととてもよいと思う。子ども自体ができる喜びを感じて、机に向かえるようになれば、本当によいことで、簡単な問題からできるようにしていくことが大事。また、中学1年生と2年

生の部活については、大きなハードルで時間の問題など難しいと感じる。3年生は受験を控え必死になってくるので、勉強に向かう姿勢も変わってくる。イブニングスクールに通うことで、日々の勉強のスタイルができ、生徒が志望校に合格できれば、この事業の意味もあると思う。

※親子交流会については、次回会議にて報告を行う。

(2) 第31期のテーマについて

【議長】 今期については、前半家庭学習応援事業について、様々な意見をいただいたため、30年度、後半にむけて、テーマを考えていこうと思うため、次回会議までに、日々の活動の中で感じている疑問や悩みについて、考えてきてもらいたい。

次回会議日程

平成29年度第8回会議

日程：平成30年3月5日（月）午後7時～

場所：教育委員会 会議室

3. 閉会

○副議長あいさつ